

令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

| | | | |
|------------------|--|----------|---|
| 実習タイトル | 佐渡・森里海の連携学コース「森里海をつなぐ野外生態学実習」 | | |
| 実習内容 | <p>豊かな自然に恵まれた佐渡島は、森林、里地・里山、海、それらをつなぐ川が“ぎゅっと”と凝縮された、森里海の生態系を短期間に学ぶことができる貴重なフィールドである。本実習では、新潟大学佐渡自然共生科学センターの演習林と朱鷺・自然再生学研究施設の教員の協力の下で、佐渡島にある森・里・海の様々な環境でフィールドワークを行い、生物多様性やそれぞれの環境における生物群集の特徴と生態系間のつながり、そして人間の社会活動と生物との関係について学ぶ。</p> <p>【森（新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林）】</p> <p>1) 演習林での人工林、針広混交林の観察、2) 溪畔林やスギ天然林、風衝地の植生観察 3) 牛の林間放牧による植生変化の観察、</p> <p>【里（新潟大学佐渡自然共生科学センター朱鷺・自然再生学研究施設）】</p> <p>1) トキの野生復帰と里山に関する講義、2) 耕作放棄地を利用した自然再生現場での調査 3) 野生復帰したトキの生息環境の見学</p> <p>【海（新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所）】</p> <p>1) シュノーケリングによる磯生物の観察・採集、2) 岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集 3) 採集した生物の観察・分類・同定、4) 河川での環境・水生生物の調査</p> | | |
| 実習内容キーワード | トキ、環境、里山、天然林、川、岩礁、人と自然との関わり、生態系、生物多様性、磯採集、シュノーケリング、トレッキング | | |
| 担当教員氏名・所属・役職名 | 安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・准教授） 川坂健人（臨海実験所・特任助教）、阿部晴恵（演習林・准教授）、 本間航介（演習林・准教授）、蕪木史弦（演習林・特任助教）、 河口洋一（朱鷺・自然再生学研究施設・教授）、 高津邦夫（朱鷺・自然再生学研究施設・准教授）、 永田尚志（朱鷺・自然再生学研究施設・フェロー） | | |
| 協力教員氏名・所属・役職名 | 1名の外部講師を任用予定 | | |
| 対象学生・学年 | 国公立大学の学部1～4年生 (大学院生も可) | 開講期間 | 2026年9月7日(月)～12日(土) 5泊6日 |
| 開講大学・施設名 | 〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87 | | |
| 施設の住所 | 新潟大学・佐渡自然共生科学センター臨海実験所 | | |
| 電話 | 0259-75-2012 | F a x | 0259-75-2870 |
| e-mail | hando311@cc.niigata-u.ac.jp | Web Site | https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/ |
| 交通案内 | 新潟港から佐渡汽船を利用して佐渡島に渡り、佐渡両津港にて集合。両津港－臨海実験所間の移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津－小木航路の利用については、事前連絡があれば公用車で小木港までの送迎を行う。 | | |
| 費用 | 約 17,000 円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代） | | |
| 授業科目名 | 臨海実習Ⅱ | | |
| 単位数 | 2単位 | 定員数 | 約 10名 |
| 授業料の徴収について | 授業料は徴収しない。 | | |
| 受講生選抜基準と申し込み締め切り | 申込締切：2026年7月31日（金） 応募書類は期日までに新潟大学理学部学務係へ必着。定員を超えた場合は、締め切り後に抽選により決定する。申し込み方法の詳細は臨海実験所ウェブサイトの「公開臨海実習」ページを確認すること。 | | |
| 選抜結果連絡法 | 書面とメールにより本人に直接連絡する | | |